

森林の大切さと活用の可能性を探る

上越市が里山シンポジウム開催

森を活かし、楽しむにはどうしたらいいか。22日、リージョンプラザで上越市主催の里山シンポジウムが開催されました。紙谷智彦新潟大学名誉教授が基調講演、不動産生産森林組合の久保桢光さんなど4人が活動報告を行いました、意見交換をしました。

基調講演をされた紙谷さんは、ブナ林を持続的に管理し、活用する新潟県の取組（「スノーピーチ」と呼んでいる）の中心にいる学者さんです。私は家庭用エネルギーが薪や炭の時代から石油、ガス、電気に替わっていく時代を生きてきた人間です。それだけに、薪炭ブナ林を持続的に活用する、研究、実践には大きな関心があります。

た。ブナ林で選木を行い、間伐する。薪や炭としてだけでなく、建築内装やイス、テーブルなどにも使うという話は新鮮でした。間伐や搬出そのものをイベントとして楽しむことができるんですね。こういう視点はとても大事だと思います。

4人のパネリストの報告も興味深いものでした。不動産生産森林組合の久保桢さん、ロッテ新井リゾートと背中合わせの山（標高800〜1100m）で整備事業に取り組んでいます。新潟の木材市場にブナ材を出し、新潟駅の待合室のイスやテーブルは不動から出したことでした。話の中には、ブナ林が安全な飲料水を供給する上で大事な役割をしていること、クロモシを使って子どもたちと一緒に爪楊枝づくりをしたこと、高山植物が多く、サルナシやヤマブドウもあることなども出てきました。



【アキギリ】。シソ科の多年草。漢字で「秋桐」と書きます。初めて見たのは20年ほど前の晩秋、吉川区の尾神から川谷へぬける道のそばでした。草むらの中に紫色の花を見つけ、興奮したものです。花の姿はサルビアと同じです。花期は8月〜10月。花言葉は「尊敬」「家族愛」です。写真は9月29日、吉川区川谷にて撮影しました。

り、「道具を扱えるようになる」ことの大切さ、子どもと大人と一緒に遊ぶ価値についても言及しました。

NPO法人かみえちご山里ファン倶楽部の松川奈々子さんは、同倶楽部が活動している桑取川流域が「里山と切っても切り離せないところ」「古くからの文化が残っている地域だ」と紹介。予防福祉の活動や古民家や地元食材を活用により、雇用の場をつくってきたことなどにふれ、「大事なことは人と森のかかわりを取り戻すことだ」「森と暮らしが離れると荒廃が生まれる」と訴えました。そして最後に、「里山は学びの原点、生きる源だ」と結びました。

NPO法人縁とくらしの学校の小菅江美さん、今回も森の魅力をたっぷりと語ってくださいました。「森には教えてくれるものがたくさんあるので、子どもたちを育てる場として選んだ」とまずのべ、森が果たす教育的役割について話を進めました。そのなかでトピックに語ったのは、「自然を感じる」ことです。とくに、いのちの横にすることが何よりも大きいとして、ヘビがヒナを食べているところを見たことを例に、「生と死の出会い」の大切さを訴えた話は感動でした。さらに、小菅さんは私の地元の布施材木店にもふれながら、ベンチやウッド「コンロ」づく

牛田光則さんは、吉川区と大島区を跨いで設立された上越やまざとくらし応援団の活動を紹介しました。そのなかで、「水源地のヤマが適正に管理されてこそ、安定した水を流し、得ることができる」「大きな林業経営も大切だが、軽トラとチェーンソーがあればできる森づくりをしたい」「自分たちの手で少しずつ森をきれいにすることが可能な未来をつくっていきたい」と訴えました。牛田さんの活動は、吉川、大島に移住したときからの地域づくりなどで様々なドラマを生み出してきました。今後も楽しみです。



ければ、次回は意見交換の時間を十分に確保してほしいですね。そうすれば、より充実したシンポジウムになるはずですよ。

3年ぶりSAKE祭り

越後・謙信SAKE祭りに行ってきました。ふだんは閑散としている高田の本町通りが人で埋まっています。やはり、みんな外に出たいんでしょうか。コロナ前と変わらぬ賑わいになっていました。

会場では元市役所職員さんや現職の課長さんなどにも会いました。イラストは、私の地元の造り酒屋のテント前の様子です。

はしづめ法一の活動レポート

No.2083 2022.10.30
 発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp
 URL http://www.hose1.jp/



ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第七三〇回

山盛りの「飯」

なんでもそうですが、そろそろ帰ろうかという時間になって、これはという発見をすることがあります。

先日、上越市立吉川小学校の創立二十周年記念事業で児童が描いた「吉川百景」などを観るために出かけた時もそうでした。しかも発見は一つだけではなくいくつもあったのです。もう、最高の気分でした。

「吉川百景」の作品は、グラウンドやプールへの出入り口ある西側の一階から二階に上がっていく階段の壁に展示されています。直径三〇センチほどの丸い画用紙に、一人ひとりのお気に入り「百景」が描かれています。全部で百八枚になります。

越後よしかわやっつたれ祭りの竿灯、よしかわ杜氏の郷のお酒、パラグライダーなど、それぞれの児童が「これぞ、吉川」と思ったものを描いていました。誰もが美しいと思う景色だけでなく、自分とかわりのある昆虫や食べ物なども描いてあるの、作品は興味深く、見応えがありました。文化祭で展示された絵もワークスペースに飾ってあり、これらも鑑賞しました。

発見の一つ目は、三階まで上がり、五、六年生の作品を鑑賞していたときでした。展示作品の中に大きな樺（けやき）の木が描かれていることに気づきました。それも何枚もです。樺の木の存在は私も十数年前から知っていました。二十一年間に大きく生長し、校舎の三階の屋根の高さまで伸びていたとはびっくりでした。

校舎とともに樺の木を描いた六年生の児童の一人は、絵のタイトルを「ぼくたちを見ていた木」としていました。理科室から見たら、樺はどっしりしています。すでに学校のシンボルの存在になっていて、この樺の木の生長そのものが吉川小学校の歩みと重なっていることにも気づきました。

二つ目。三階から再び「吉川百景」コ

ナーを通って下りるとき、児童が選ぶ「百景」の中には、実った稲の上を飛ぶ赤とんぼやセミなどの昆虫、ウグイスなどの小鳥、花が多いことにも気づきました。よく短い言葉で「吉川は自然豊かなところ」と言いますが、子どもたちは、普段見かける動植物も「素敵だ」と思っているのです。これって大事なことだと思いませんか。

三つ目。「吉川百景」のなかに茶色の木の幹がドーンと描かれ、その周りに大小九個の赤い塊が描かれているものがありました。校長先生によると学校のプール脇にあるザクロだということでした。児童には、これが大人気で、休み時間には人だかりができるのか。手の届くところにあるザクロの赤い実はすでになくなっています。原之町の平野さんが指導している学校の絵手紙サークルの作品でもザクロは人気で、じつに美味しそうに描かれていました。

私が子どもだったころはまだ食糧難が続いていて、なんでも食べてました。野にあるイチゴやミヤマツツ、小さな梨の実は競争して探していました。吉川小学校のザクロはそれとは違うものの、いまの子どもたちも食べ物に競って求めることがあるという事実は新鮮でした。

そして四つ目です。「おおっ」と心を揺さぶられたのはZさんが描いたご飯の絵です。青と緑の二色の茶碗と赤い茶碗に真っ白なご飯が山盛りしてありました。ご飯は一粒ひとつぶしっかり描いてあります。これを見た時、「吉川は美味しいコメがとれるところ。ぼくはご飯が大好きです」というZさんのメッセージを感じました。私はうれしくなって、校長先生に言いました。「この絵、ご飯が山盛りですね。吉川の発展を象徴する最高の絵です」と。

新型コロナの関係ですっかりご無沙汰していた吉川小学校でしたが、子どもたちの絵を観て、私も元気をもらいました。

マリキータが10周年記念コンサート開催

市内の音楽グループのマリキータ（「てんとう虫」という意味）が結成から10年経ったということで23日、記念コンサートを開催しました。会場のオーレンプラザのホールには400人を超える人たちが集まり、「コンドルは飛んで行く」「クヌミシータ」などの曲の演奏を楽しみました。

マリキータ代表の西脇美智子さんによると、最初は6人でスター

トしたが、半年くらい音が出なかつたそうです。それがいまは見事な演奏をしているんですから、大したもんです。「クヌミシータ」と「サリリ」という曲には歌も入りました。

この日のコンサートのゲストはアコーディオンとフルートのデュオ、「シャンテ」のみなさんの初めて聴きましたが、「君をのせて」「黒い瞳」などの演奏はとても素敵でした。

最後はマリキータとシャンテのジョイントです。「コーヒー・ルンバ」「花まつり」の演奏中、踊りも入りました。西脇さんと鷹股昌さんだけでなく、カフオンの牧野直美さんも踊るとはびっくりでした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 10月19日(水) | 10月26日(水) |
|--------|-----------|-----------|
| 上越南消防署 | 0.057 | 0.053 |
| 上越北消防署 | 0.047 | 0.050 |
| 新井消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 頸北消防署 | 0.050 | 0.040 |
| 頸南消防署 | 0.063 | 0.060 |
| 東頸消防署 | 0.043 | 0.047 |
| 名立分遣所 | 0.060 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.050 | 0.053 |